

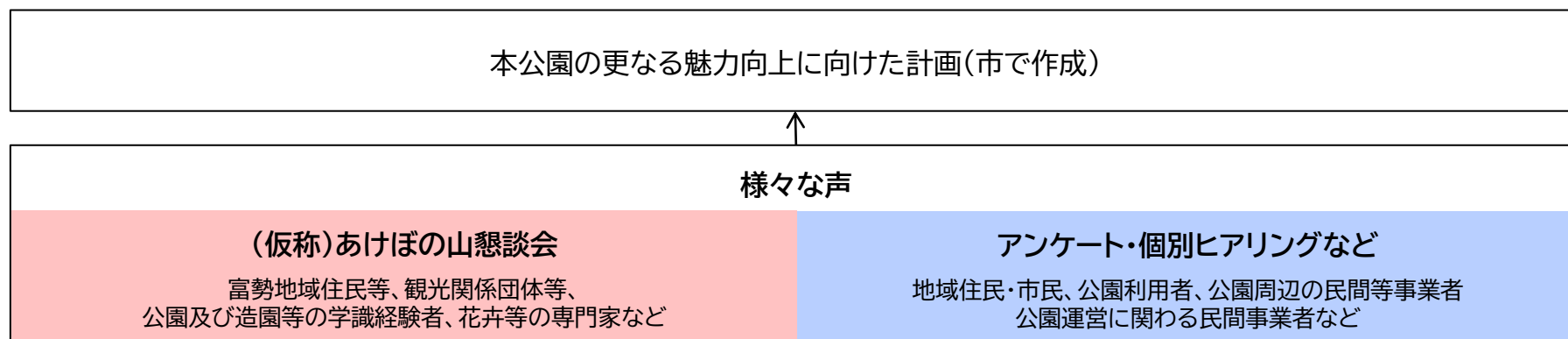
あけぼの山周辺地域懇談会 第1回資料

あけぼの山公園 及び 柏市あけぼの山農業公園



懇談会の趣旨

- 市では、あけぼの山公園と柏市あけぼの山農業公園の**花や緑**によって、「**市民の豊かな生活の実現**、そして**柏市のブランディング向上**へ寄与すること」を目指しています。
- そのため、本懇談会では住民や地域の目線、公園・農業・花などの専門的視点から、**公園の現状や未来に対して様々なご意見を伺い**、2つの公園を一体とした他にはない魅力的な公園に向けた**公園の方向性整理の参考**としたい。



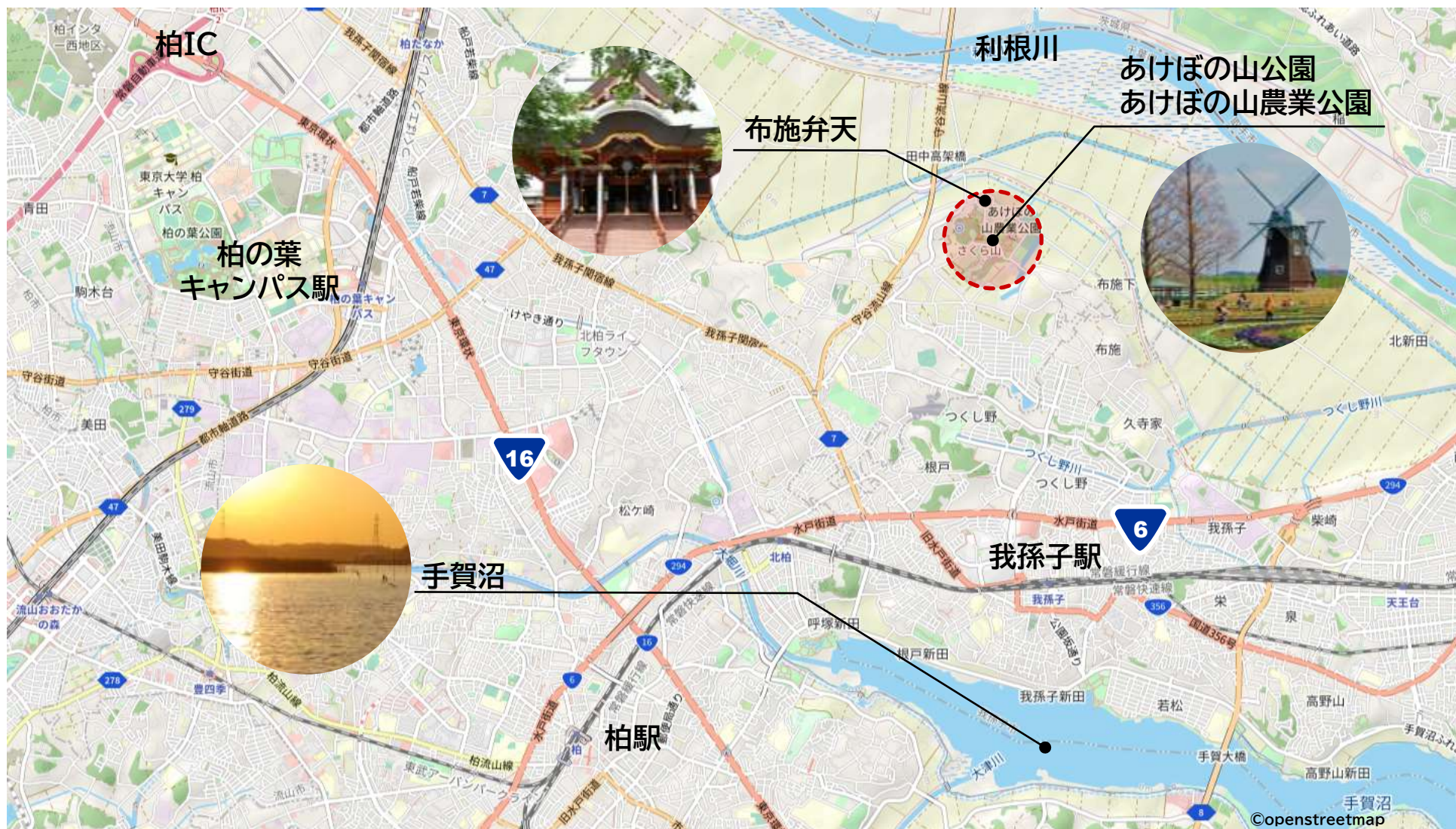
本日の内容

1. あけぼの山の歴史
2. 公園概要
3. 現状分析
4. 過去の議論の振り返り
5. まとめ
6. 意見交換

1. あけぼの山の歴史



① 柏市の観光名所



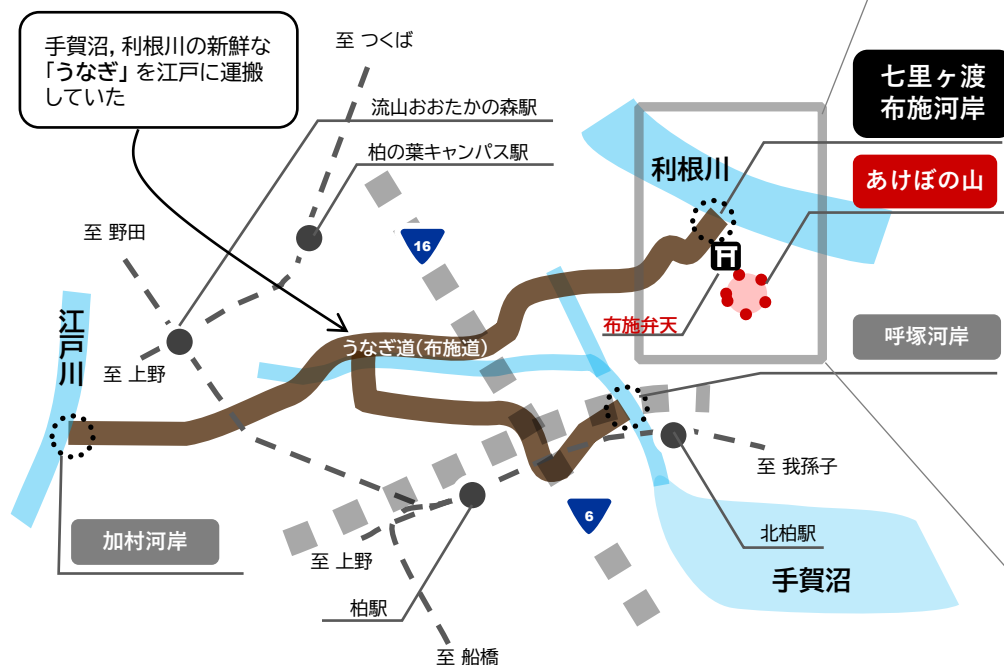
柏市は、あけぼの山・布施弁天・手賀沼など、古くから多くの行楽客が訪れる土地

② 流通の要衝

しちりがわたし ふ せ か し

七里ヶ渡、布施河岸

- 「七里ヶ渡」は、布施と対岸の戸頭(取手市)との間に設けられた江戸幕府が定めた**利根川の渡し場**の一つ。
- 「布施河岸」は、常陸・下野・南奥州筋の物産や銚子方面の鮮魚などの**荷物の陸揚げ**を扱っていた。
- 布施村は、渡し場や河岸(布施河岸)の設置により**物資流通の要所**として栄えたのみならず、関東三大弁天と称される**東海寺の門前町**としても賑わった。



③ 紅龍山布施弁天東海寺とあけぼの山公園

歴史

- 関東三大弁天と言われる布施弁天東海寺のある布施の街道沿いは、**一時期、成田山を凌ぐ繁栄をみせた※1**と言われるほど、多くの人々が集まる栄えた場所であった。街道である布施道には、江戸創業の橋本旅館(昭和初期建築)があり、昭和30年代に廃業していたが、近代古民家カフェとして再生している。
- 布施弁天※2やあけぼの山がこのような栄えた理由は、水上交通上の要衝に近接していること、そして**東海寺住職や後藤家などが、あけぼの山にサクラを植林し、布施道や七里ヶ渡を利用する旅人を呼び込むために実施した、江戸時代では先進的取組みであった「市民による花の地域振興策」が功を奏した**からとも言われている。
- 昭和45年に市があけぼの山を取得、再整備し、開園したのを手始めに、都市公園として、水生植物園、日本庭園、柏泉亭(茶室)を段階的に整備してきた。**

※1 布施弁天の隆盛

- 明治44年(1911年)に刊行された『富勢村誌』によれば、人々の俚諺(はやりうた)に「成田不動も布施弁天の半ばに昌(さかん)なればよいが」と唄われ、古江戸名勝図会にも載せられている。

※2 布施弁天

- 関東三大弁天の一つであり、延宝2年(1675年)、布施村にあった亀甲山(周囲を水に囲われ亀が浮かんでいるような形)に、後藤又右衛門が願主となり、里人と共に藁にて小社を造り、弁天を祀られたと言われている。(関東三大弁天:相模の江ノ島弁天、浅草寺弁財天、布施弁天。ただし、諸説あり。)
- 宝永2年(1705年)には、村人達の願いにより、布施村の古屋地先にあった東海寺を亀甲山へ引っ越しを行い、東海寺と弁財天は一体となって繁栄した。布施弁天が最も繁栄時期は、本堂が建立された享保元年(1716)頃から天明7年(1787)頃までと言われている。

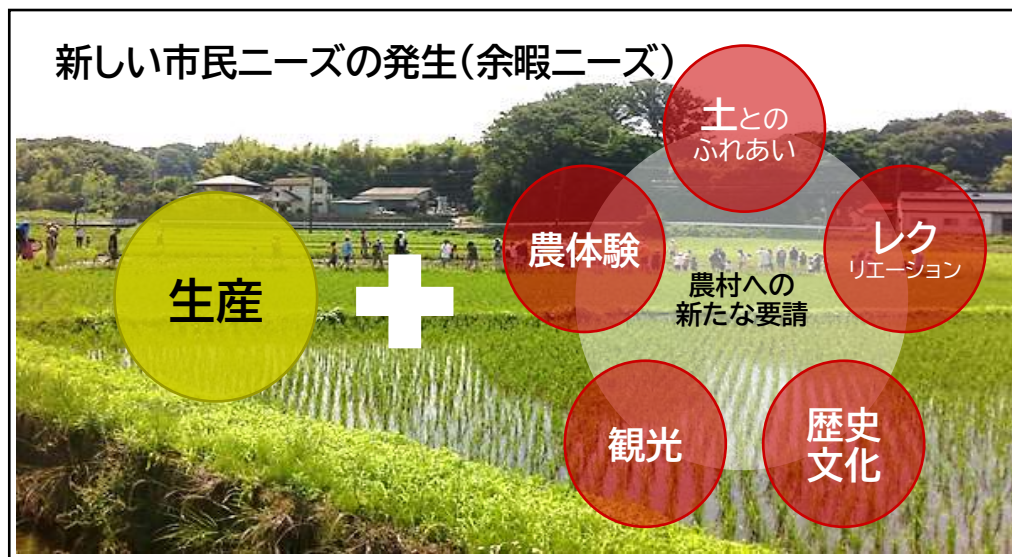
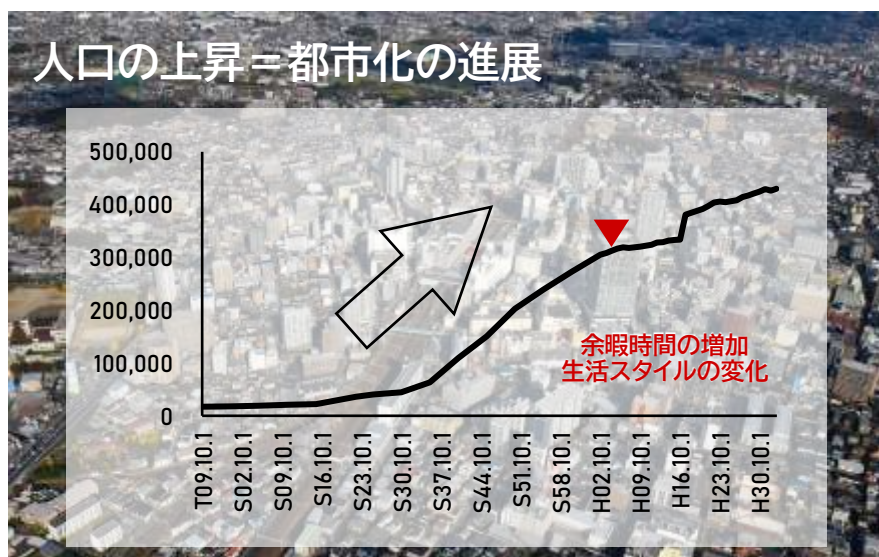


明治44年

④ 柏市あけぼの山農業公園

公園の成り立ち

- 昭和57年に、農業振興政策の一環として、農業後継者の養成、農業従事者の技術研修などを行う農業研修センター(現本館)をオープンした。農業関係者からなる柏市農業研修センター運営協議会が発足、活用を開始した。
- 平成6年に、市民の新たな余暇ニーズに応えること、そして市民との交流・共生を通じて、農業の振興、農村の活性化を図るため、あけぼの山農業公園をオープンした。



市民との交流・共生

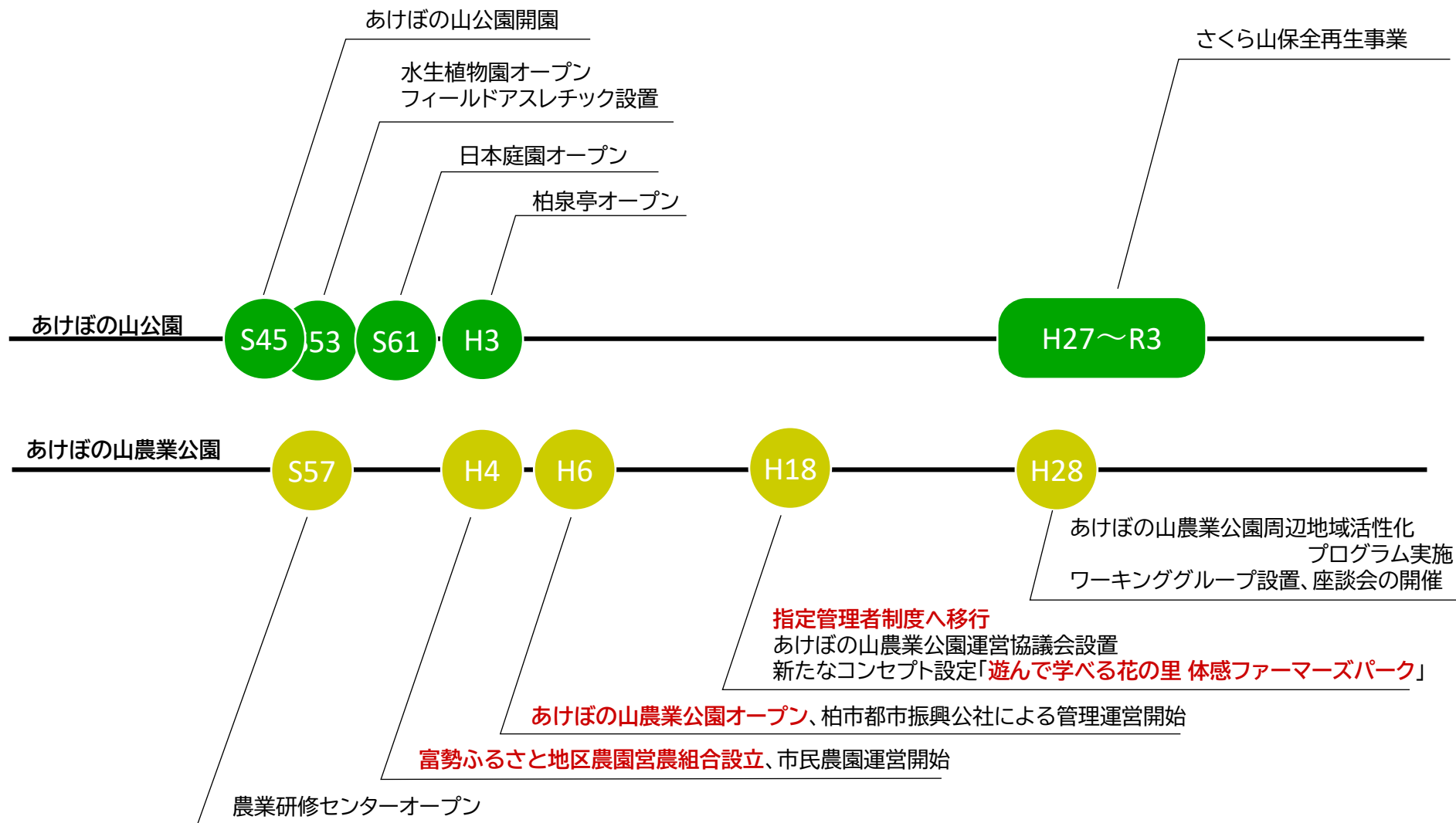
市民の余暇ニーズに応えること

&

市民との交流・共生を通じて

農業の振興、農村の活性化を図っていく

⑤ あけぼの山公園とあけぼの山農業公園



2. 公園概要

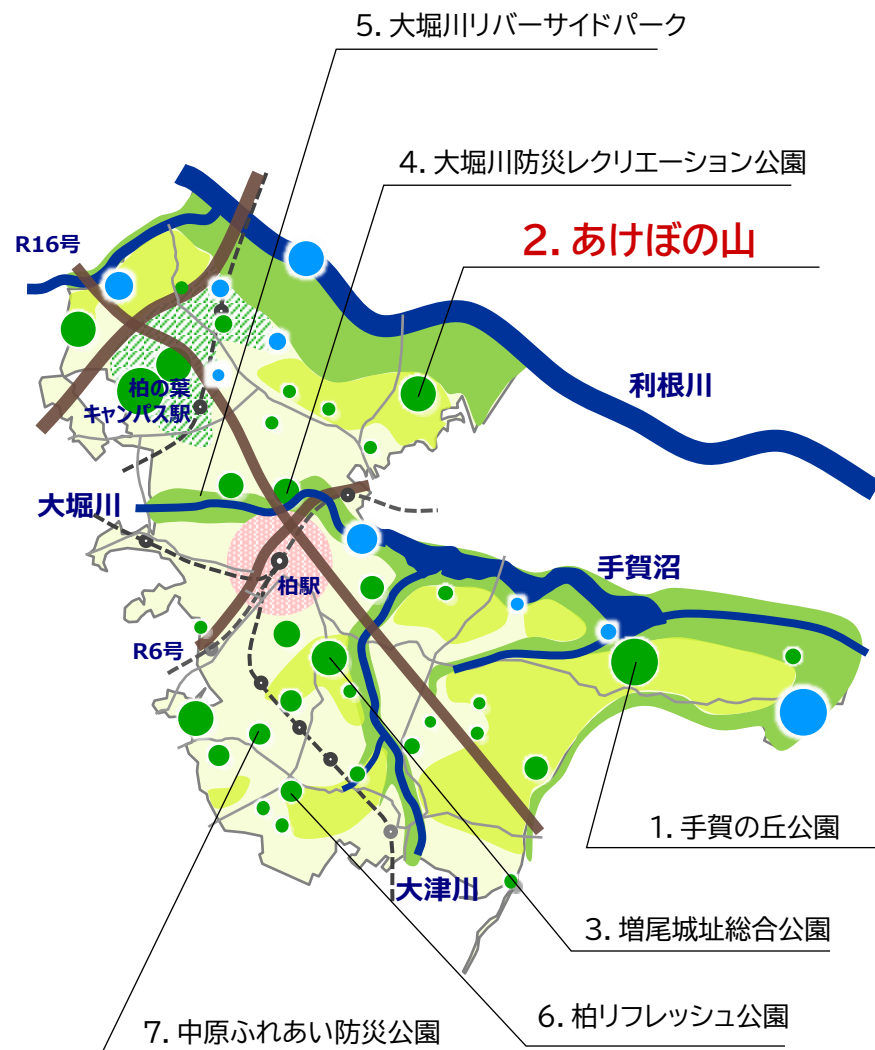


① 公園の規模

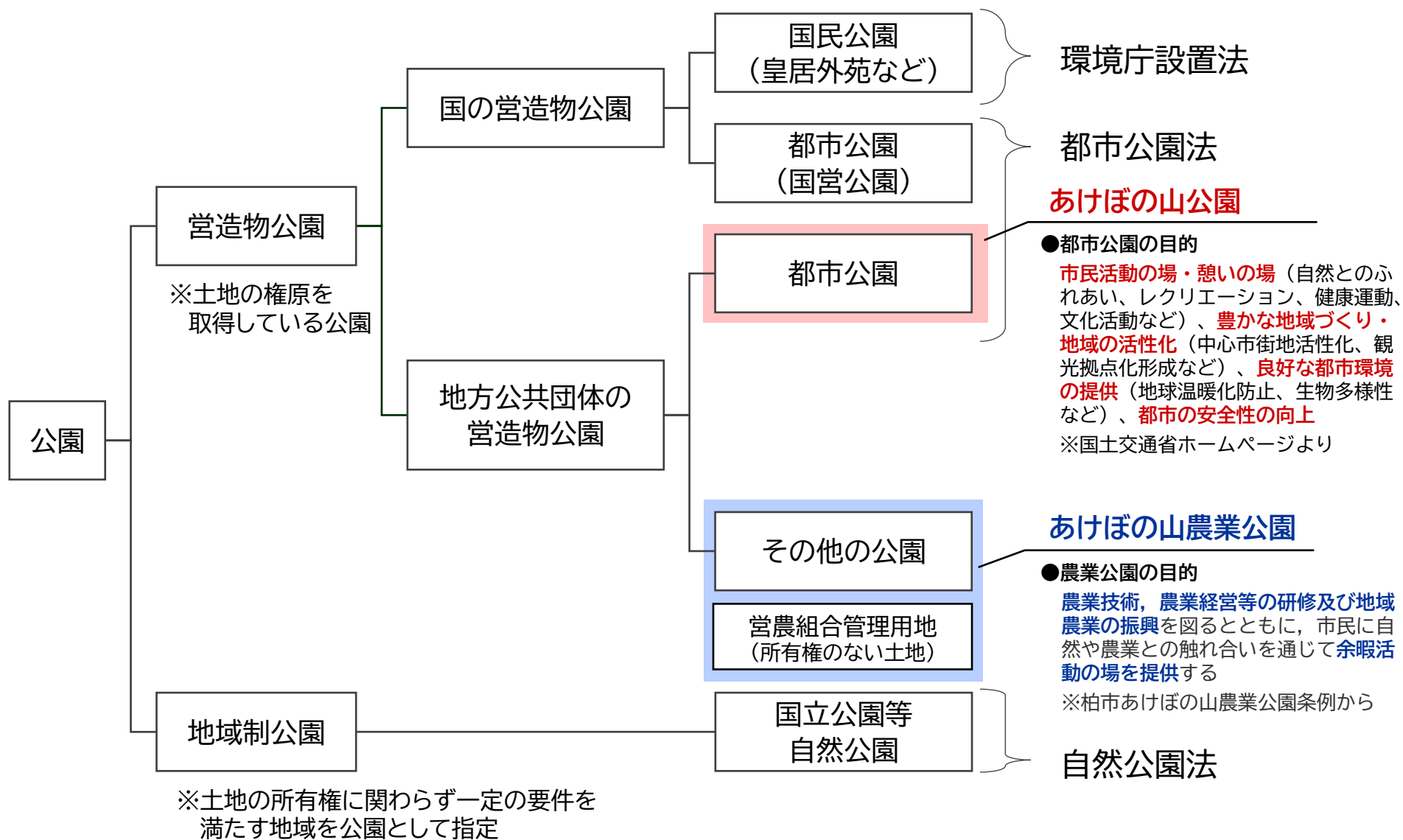
市内の公園との比較

- ・ 柏市が管理する公園は、令和5年3月末日時点で653公園となっている。
- ・ 柏市が管理する公園では、2番目の規模にあたる。

	名 称	面積(ha)
1	手賀の丘公園	25.9
2	あけぼの山公園(都市公園) 柏市あけぼの山農業公園(条例による公園)	23.7
3	増尾城址総合公園	8.4
4	大堀川防災レクリエーション公園	5.9
5	大堀川リバーサイドパーク	5.7
6	柏リフレッシュ公園	5.7
7	中原ふれあい防災公園	4.8

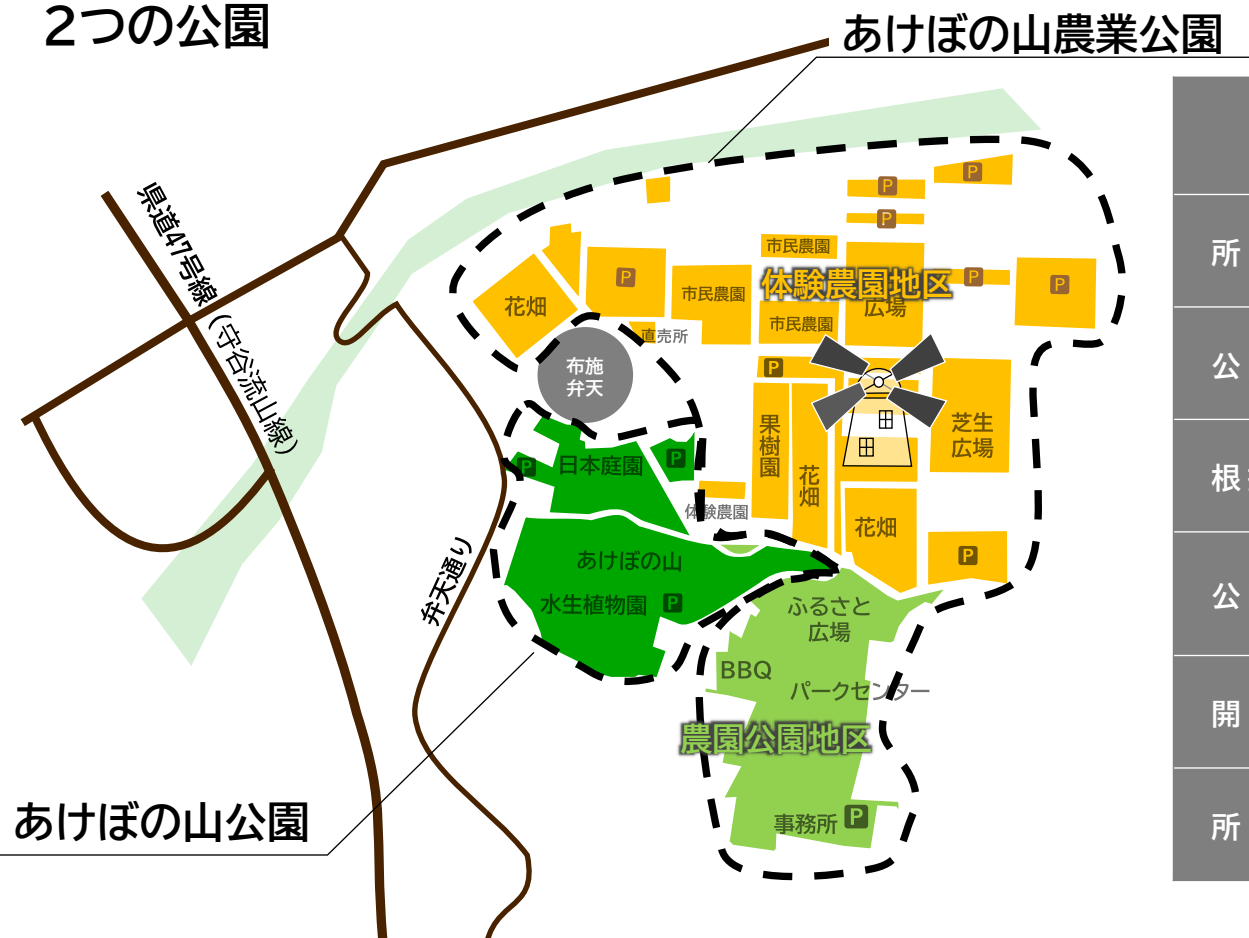


② 公園の位置づけと設置目的



③ 公園概要その1

2つの公園



	あけぼの山公園	柏市あけぼの山農業公園
所在地	柏市布施 1940他	柏市布施 2005番2
公園種別	都市公園 (風致公園)	柏市独自公園
根拠法令	柏市公園条例 (都市公園法)	柏市あけぼの山農業公園条例
公園面積	58,963㎡	177,600㎡
	合計 236,563㎡ (23.7ha)	
開設日	昭和45年6月2日 (1970年)	平成6年4月29日 (1994年)
所有者	柏市	柏市 柏市(借地) 個人農家

- 農業公園は、営農組合が中心に運営する**農村の活性化と農業への理解を深めてもらう「体験農園地区」**と市が運営する**レクリエーションの拠点、都市農業振興の拠点である「都市農業公園地区」**に分かれる。

※富勢地区ふるさと農園営農組合:体験農園地区の地権者が集まって平成2年度に設立、市民農園や体験農園の運営、花の植栽等を実施

※観光農園:公園周辺には、公園と一体になって地域活性化を目指す観光農園が立地(イチゴ、ブルーベリー、ミカン)

③ 公園概要その2

公園運営の区分



本公園は、2者による運営を行っており、「**農**」に関する部分は**営農組合(土地所有者は農家)**、「**レクリエーションなど公園**」に関する部分は**指定管理者(土地所有者は市又は市が借地)**が担っている。

	あけぼの山公園	柏市あけぼの山農業公園
所在地	柏市布施 1940他	柏市布施 2005番2
公園種別	都市公園 (風致公園)	柏市独自公園
根拠法令	柏市公園条例 (都市公園法)	柏市あけぼの山 農業公園条例
公園面積	58,963㎡	177,600㎡
	合計 236,563㎡(23.7ha)	
指定管理 区域面積	58,963㎡	116,600㎡
	合計 175,563㎡(17.6ha) 年間管理料 約139,800千円	
営農組合 管理区域 面積	0㎡	61,000㎡
	合計 61,000㎡(6.1ha) 年間管理料 約38,000千円	

③ 公園内の主な施設

あけぼの山公園(都市公園)

あけぼの山

江戸時代から、桜の名勝であった通称さくら山を市が買取り、公園として整備



日本庭園

昭和61年に開園、池やせせらぎの水際まで芝生をはるなど、自然的要素を取り入れた庭園



柏泉亭

平成3年に市政35周年記念で建設、こんこんと湧く泉のように柏市の発展を祈って命名



水生植物園

昭和54年に開園、約2千㎡の池を中心に中州や東屋がある水と緑の純日本風の庭園



③ 公園内の主な施設

あけぼの山農業公園(農業公園地区)

本館

旧農業研修センター、現在は事務所以外に研修室、和室など貸室として活用



資料館

旧農業展示の場、現在は、売店・キッズルーム・貸室、今後はパークセンターとして活用



プラザ広場

資料館や加工実習館に囲われたエリア、現在は、Trial Garden事業で活用



ふるさと広場

レクリエーションの場としての役割を担い、各種イベントが開催できる芝生広場として活用



栽培温室・展示温室

販売用の苗の栽培温室、熱帯植物の展示温室、栽培温室は現状はTrial Garden等で活用



加工実習館

農産物を加工するアグリプラントとして建設、現在は貸室として活用



バーベキューガーデン

自ら収穫した野菜等を使ったバーベキューとして計画、現状もバーベキュー施設として活用



穴窯

1300℃にも達する本格的な窯 令和4年度から陶芸家や有志による再生プロジェクトを実施中



③ 公園内の主な施設

あけぼの山農業公園(体験農園地区)

風車と水辺の広場

豊かな田園風景を演出する風車や池を配置、シンボルとして景観を考慮した植栽を計画



ふれあい農園

四季折々の花を栽培し、花と土に触れることができる農園



市民農園

一区画30㎡程度の圃場を市民へ解放し、主体的に耕作できる農園、平成4年に開園



トマトハウス

平成4年にオープンした地元柏市産の新鮮な野菜を安全・安心・安価に購入可能な直売所



ふれあい広場

修景池や休憩所、駐車場を配置した広場



体験農園

種まきから収穫までの一連のサイクルを体験できる田畑、サツマイモ収穫など学童農園



果樹園

農家がウメ、アンズ、カリンなどの果樹を栽培収穫、現状では、ピクニック的利用が多い



芝生広場

天然芝の広場が2面あり、主にサッカー等のスポーツ利用が行われている



3. 現状分析



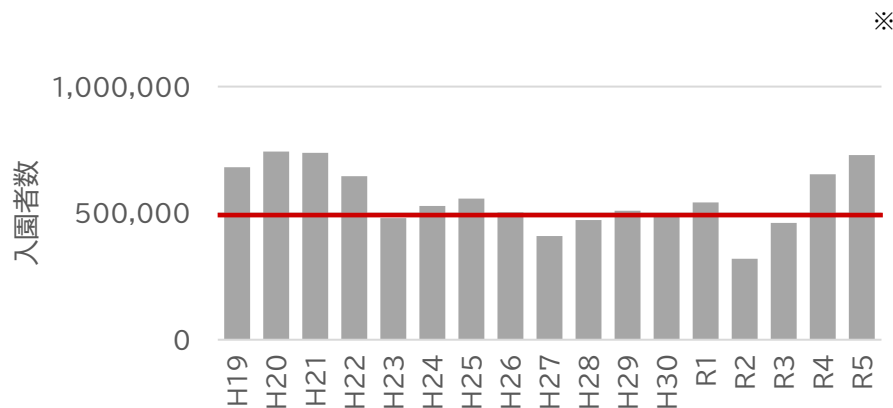
① 来園者数

年間来園者数

- 平成6年に開園以降、増加してきた来園者は、平成20年の743,368人をピークに減少し、**約50万人前後で推移**している状態である。

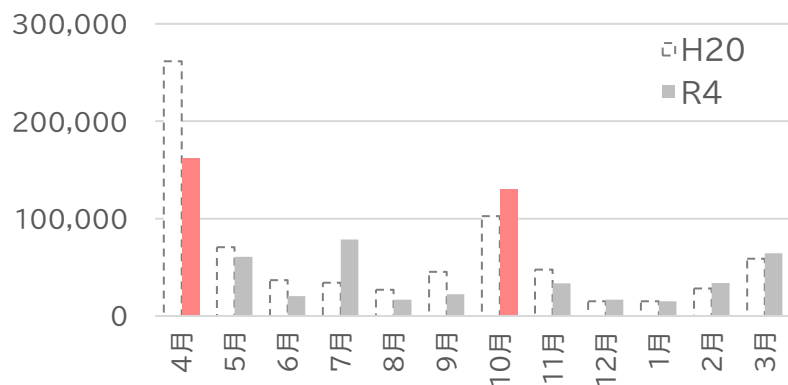
計測値は、指定管理者の目視調査による推計値であることから、正確な数値ではない。このことから、精度確認のため、令和5年度に携帯位置情報(20歳以上)を元に確認を行った。

これによると、令和4年度の20歳以上の来園者数は約43万人にであったことから、20歳未満の子供の割合を含めると、約50万人弱程度である。このことから、おおむね年間50万人前後の来園があることが推測される。



月間来園者数

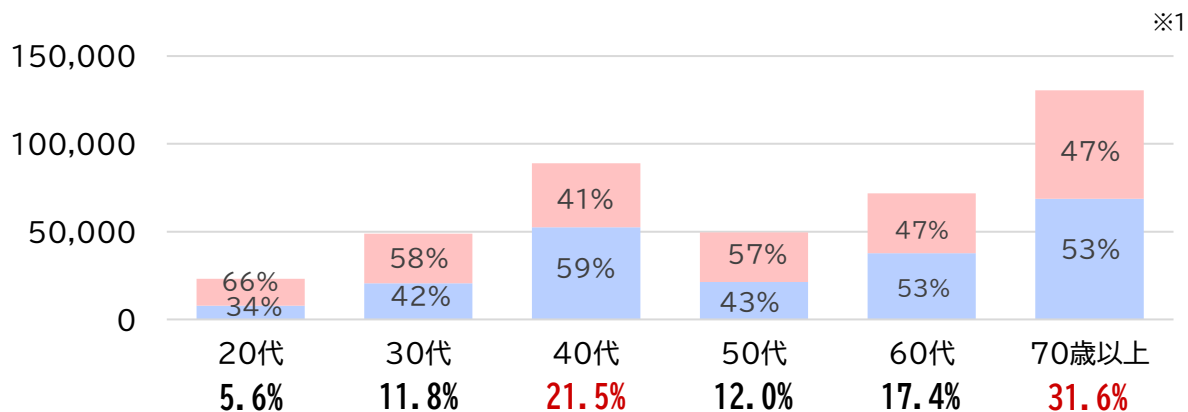
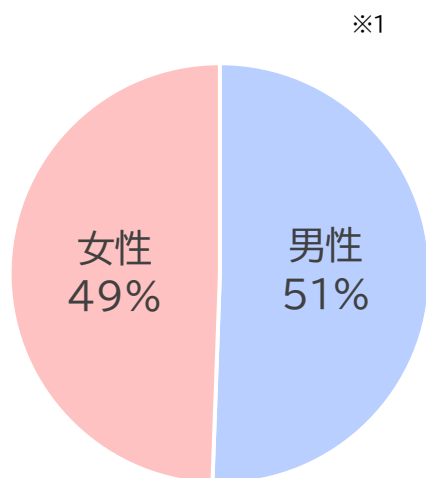
- 月別の来園者数の偏りは、昔から変わっていないく、**春と秋に集中**している。
- ピークであった平成20年度のデータを確認すると、今よりも春の来園者数が多く、4月は**現在より10万人ぐらい多い**状況である。



② 来園者属性

来園者の属性

- 男女比はほぼ同じであり、偏りはない。
- 主要客層は、**70代、40代(ファミリー層)**、若い世代は女性の割合が多い
- 一人で利用する、子供とちょっと遊びに行くような身近な日常利用の公園ではなく、家族みんなでお出かけする際に選ばれる**非日常利用の公園**である。また、夫婦利用も高いことから、**大人も楽しめる公園**であることが伺える。



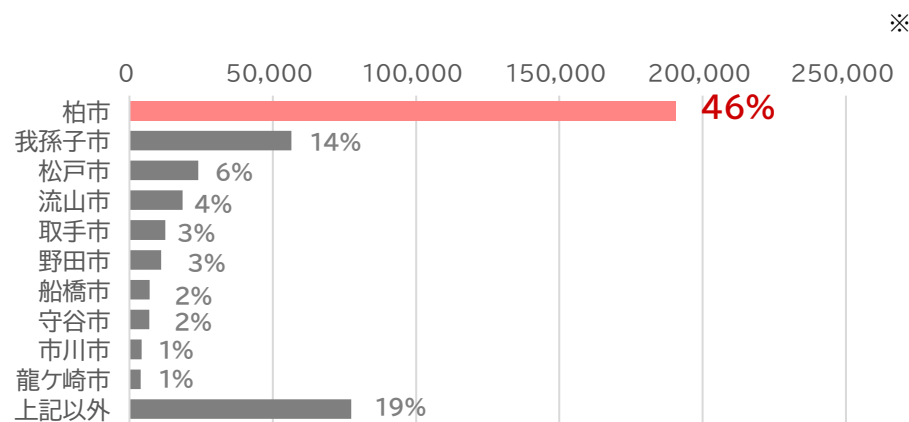
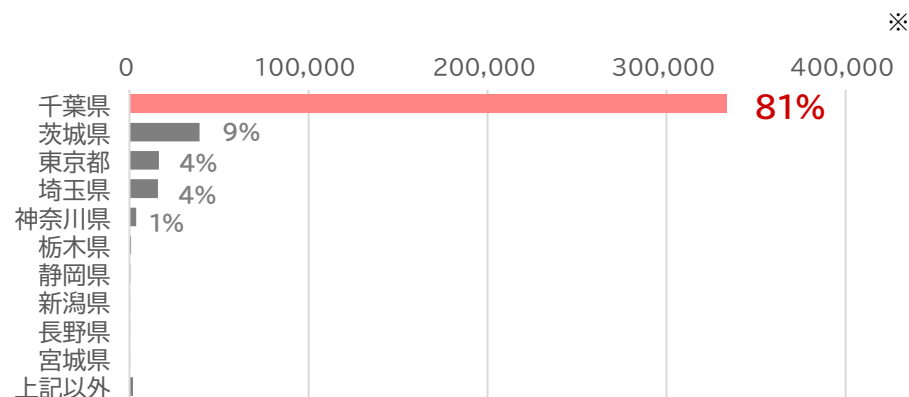
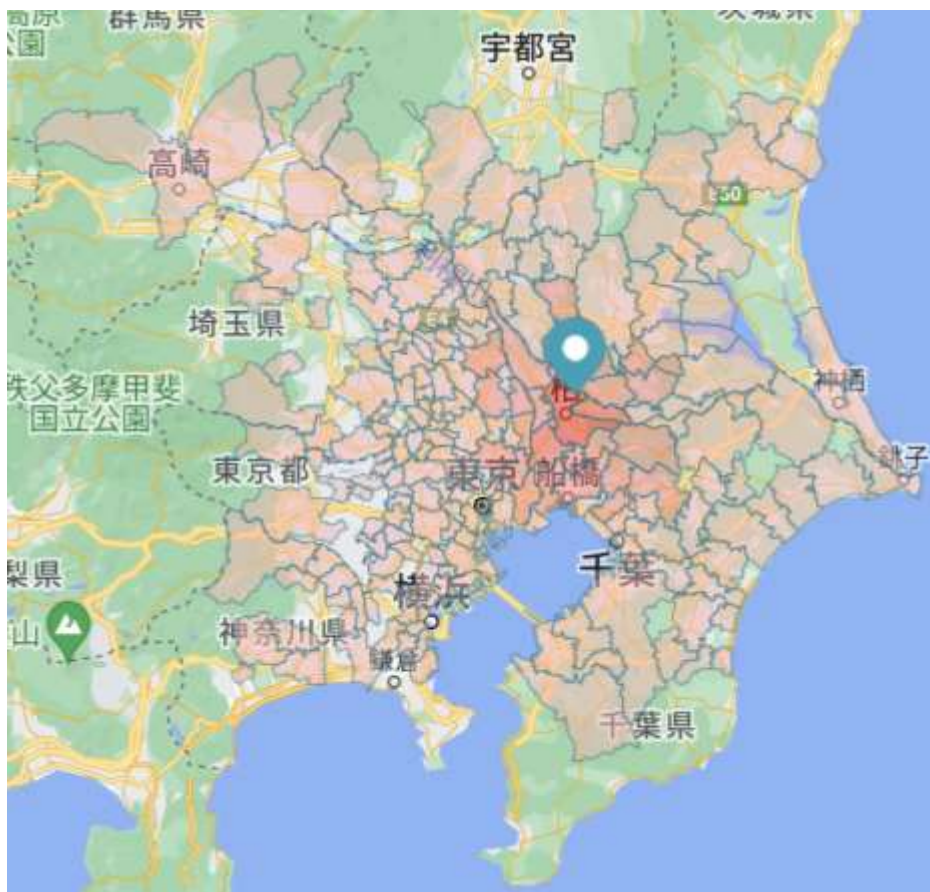
※2

誰と来ているか	一人	友人知人	カップル	夫婦	家族	子供	地域の方	無回答
市内公園の平均	24.4% ▽	16.4%	2.3%	19.2% △	39.0% △	20.5% ▽	2.4%	9.0%
あけぼの山	11.3%	16.1%	1.7%	25.3%	46.9%	15.4%	1.7%	8.9%

② 来園者属性

来園者の居住地

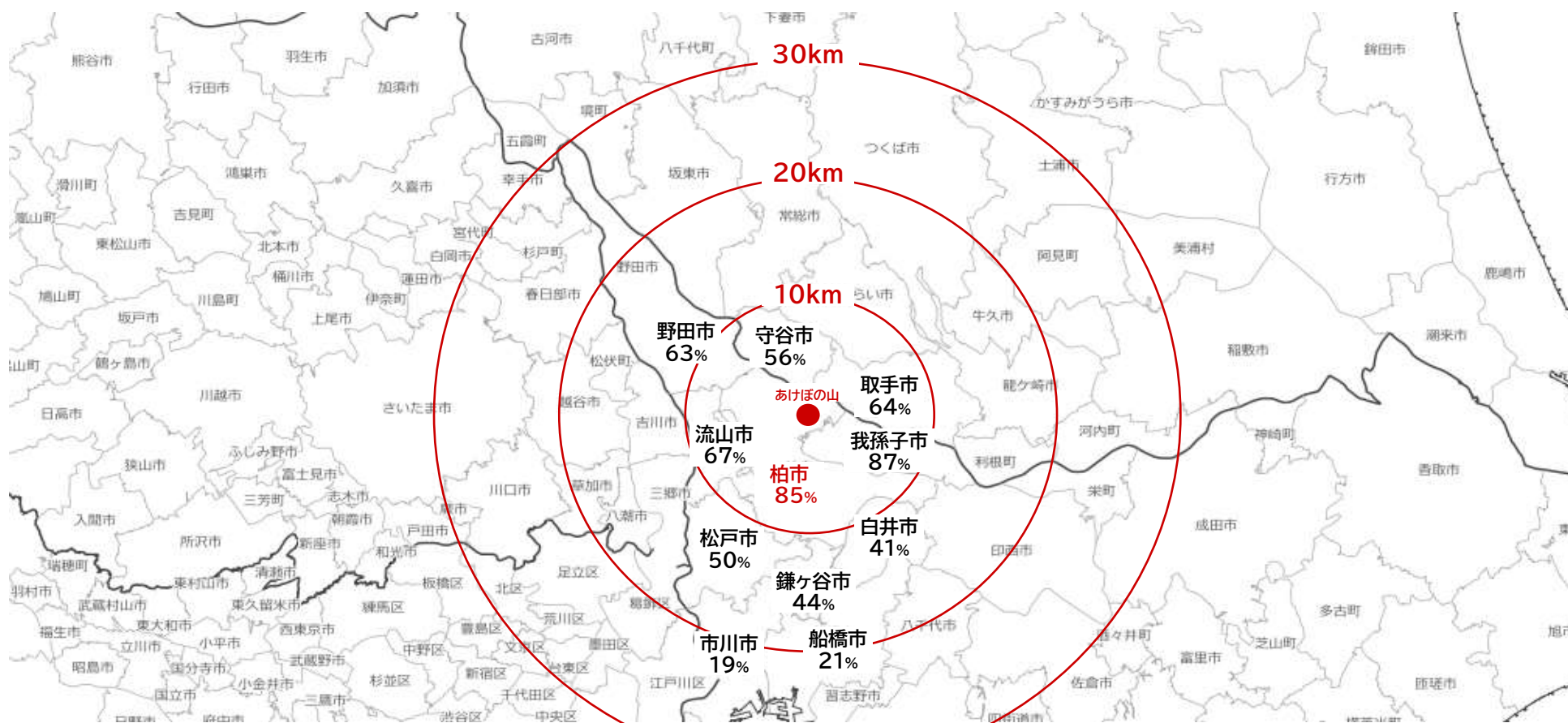
- かなり広域からの来園がみられるが、その**多くは県内(81%)**となっている。また、来園者のうち**46%が柏市民**となっている。



③ 本公園の認知率

柏市周辺都市における状況

- 公園から近いほど、認知率が高い、特にあけぼの山に隣接している我孫子市は、認知率が高く、柏市よりも高い。
- 10kmを超えると認知率は下がり始め**20km離れる市川市・船橋市はかなり低い**状況である。
- 一方で、**茨城県の守谷市や取手市は公園に近いものの、認知率は低い。**



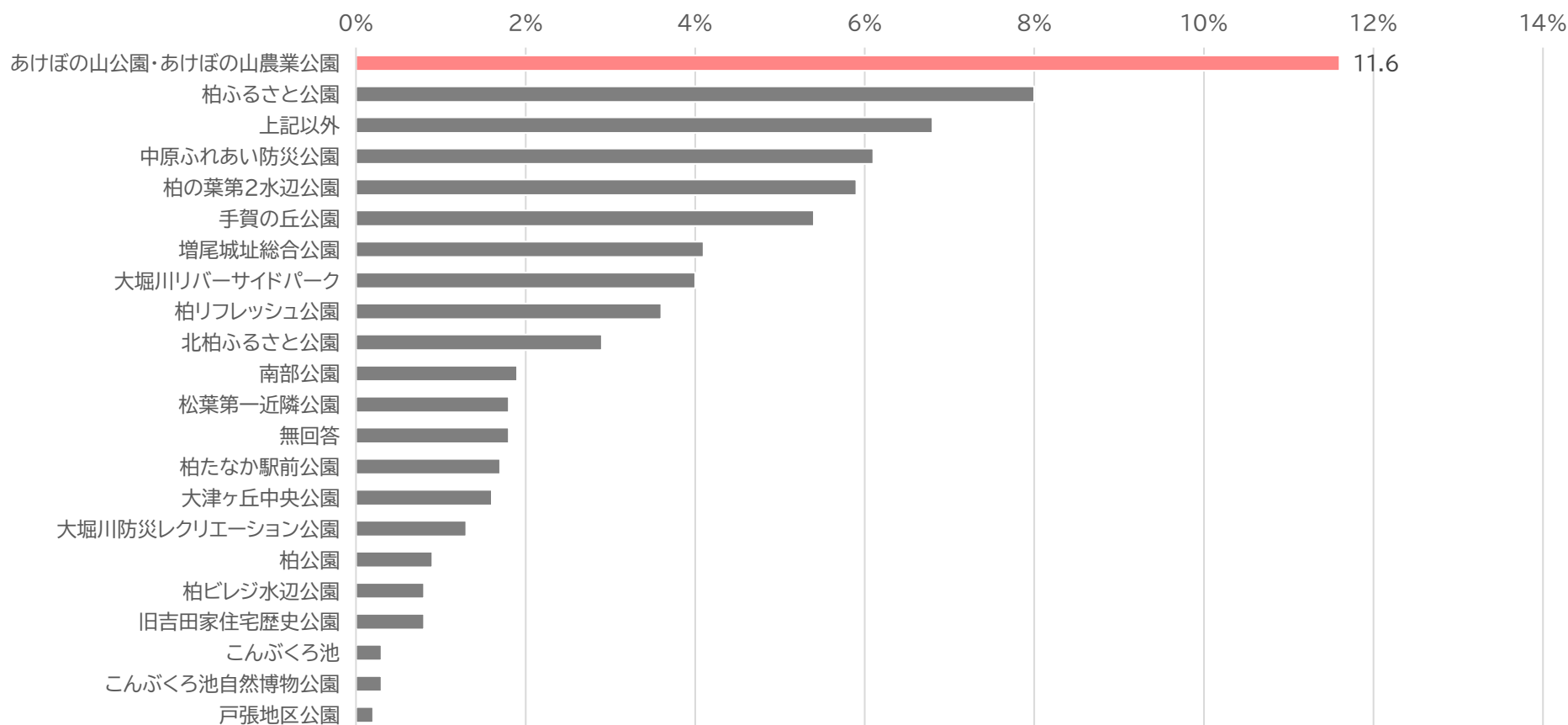
※ あけぼの山に係るWEBアンケート調査(R5年度 11市町村、回答者数2,200人)

④ 市内公園との比較

市民がよく利用する公園

- 最もよく利用する柏市の大きな公園(1つ)はどこかの問に対して、11.6%※の方があけぼの山と回答しており、**市内で市民が最もよく利用する公園**となっている。

※柏市民43万人のうち、**およそ5万人が、よく利用する公園**である。



④ 市内の大きな公園との比較

交通手段

- 市内のほかの大きな公園と比較し、**自動車分担率が非常に高い(76%)**
- 一方で、バスなどの**公共交通の利用**は、市内の他の公園に比較して多いものの、**僅か4%**に留まっている

	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・電車	無回答
市内公園の平均	37.6	14.5	0.6	42.6	1.8	3.0
あけぼの山	7.9	7.5	1.4	76.0	4.1	3.1

公園で何をしたのか

- 花や自然**を楽しんだ割合、**イベント**参加率が高い、また**写真撮影の割合が高い**のも本公園の特徴である。
- 一方、食事の割合も高いものの、**飲食店や売店がある公園としては低い**。(他の公園は飲食店・売店がない)

	散歩した	イベントを見た・参加した	花や緑、自然を楽しんだ	のんびり休んだ	子どもを遊ばせた	友人・知人と遊んだ	運動をした・スポーツした	通り道として通過した	食事をした	犬の散歩をした	会話を楽しんだ	写真撮影	公園内の施設を利用した	その他	無回答
市内公園の平均	60.6	16.7	43.0	20.7	28.6	8.2	19.4	9.9	13.0	11.3	10.1	15.8	4.2	3.6	2.2
あけぼの山	56.8	28.4	68.5	19.9	23.6	6.5	10.3	2.7	19.5	5.1	6.5	33.2	5.5	1.7	1.4

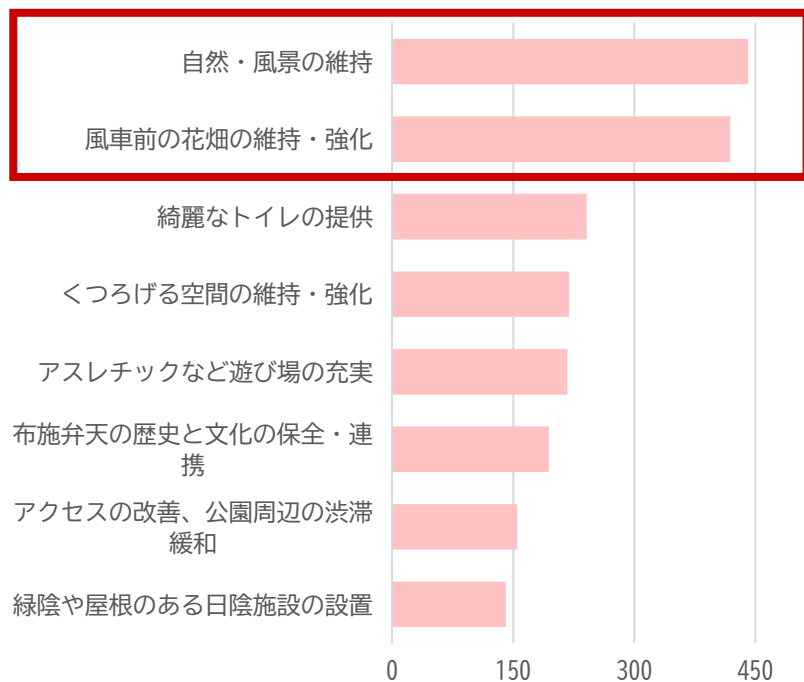
※ 公園利用実態調査(R5年度 回答者数:柏市民2,523人)

⑤ 来園者・地域住民の声

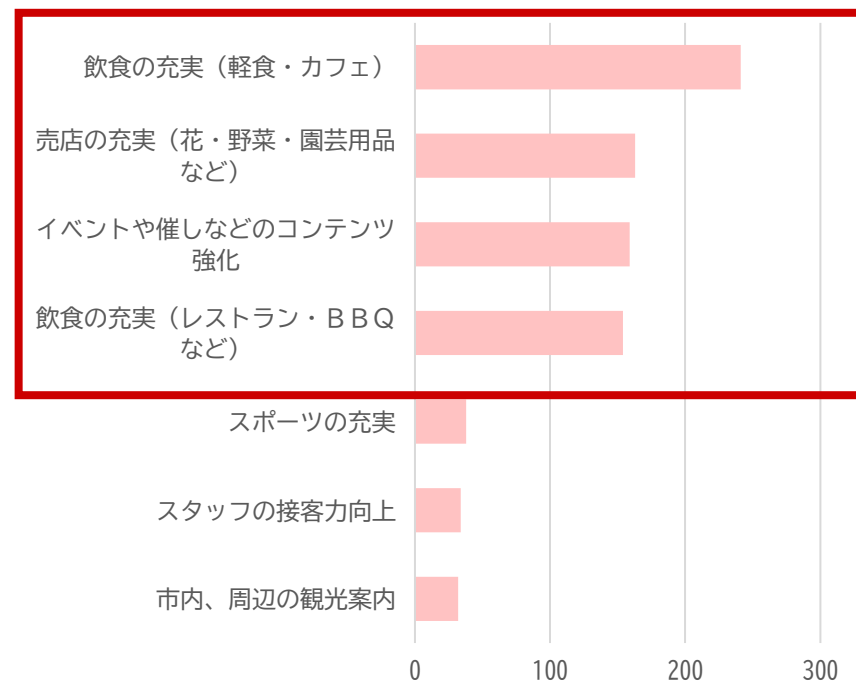
今後の公園に必要な魅力とは（求められる魅力とは）

- ・ **自然・風景の維持、風車前の花畑の維持・強化**が必要と感じている方は、非常に多い。
- ・ 来園者が期待するものは飲食、特にカフェといった**軽い飲食**、そして**売店・イベントの充実**である。

空間やハード・インフラ面



サービスやソフト・管理運営面



⑤ 来園者・地域住民の声(自由記述から)

空間やハード・インフラ面

自然・風景や花畑などの「景観に癒される」という声が多い。

- ・ 毎年チューリップを見に来ています。**見事な景色に感動**です。関係者の方々ありがとうございます。
- ・ 散歩がてら花を見に行くのに丁度良い。**子どもが幼い時は遊ばせるのにとても環境が良い**ので良く利用させていただいていました。
- ・ 風車プラス チューリップ **こんな綺麗な場所が近くにあるというのが自慢**です。
- ・ 家事を終え時間ができると無性に行きたくなる。空が広くて日常から解き放たれる。**悩んでいたこととか、胸につかえていた心配事がなくなる。**
- ・ コロナ禍の外出自粛間にあけぼの山公園で散歩したりして、**四季折々の花畑や自然にとても癒やされました。**
- ・ **他の公園にない施設が融合**している。**田園風景とマッチ**していることも魅力的。
- ・ 幼い頃から見て育った四季折々の**花は毎年圧巻**だし、近所に住んでいるのですがとても自慢だし、知人からも羨ましがられます。
- ・ 景色が良く季節感を感じられるので楽しく歩けます。**風景目当てに来られる方は多いので大きな魅力**です。
- ・ 家族で四季折々の花が咲いていることが楽しみの1つになっています。**子供たちも花の名前を覚えたり勉強にもなっています。**
- ・ **他には絶対に無い自然と弁天様、風車は意図したことでなく偶然に組み合わせられた宝物**だと思う。
- ・ チューリップなど花の時期に高齢の母と訪れるのが本当に楽しみです。**今後も母が喜ぶ顔が見たいです。**花園や休憩施設の充実をお願いします！

その他、遊具など子供の遊び場の充実、アクセスの改善・渋滞緩和、トイレの清潔さに対する意見が多い。

- ・ 花畑を見ている時に子どもたちが遊ぶ**スペース(アスレチック)**が欲しい。維持が大変だと思うがアスレチックを復活して欲しい。
- ・ 子供が小さいので、**もう少し遊具がある**といいなと思います。
- ・ もう少し、巨大滑り台～とか、ふるさと公園にある、色々なブランコ～の様に何か**大型の目玉になるような遊具がある**とありがたい。
- ・ イベント時、**公園までの交通が大変。渋滞で何度も途中で挫折**した事がある。
- ・ **行き帰りの渋滞が酷い**ため、改善を希望します。
- ・ 地元道路の整備を最優先してほしい。**休日等は車で家を出るのも不便**です。
- ・ **渋滞しないように交通整備する必要がある。**住人がいることを理解し、対応いただきたい。**駐車場料金をとり、整備費にあてるべき**である。
- ・ 最近は何処でも綺麗なトイレが設置されています。**トイレが綺麗だとまた来よう**と思います。

⑤ 来園者・地域住民の声(自由記述から)

サービスやソフト・管理運営面

ちょっとした飲食、そして物販の充実に対するニーズが高い。

- ・ BBQは値段が高すぎるので、おにぎりやパン、サンドイッチ程度の軽食を充実してほしい。季節によってはオープンカフェがあるといい。
- ・ 子供が小さいので、カフェやちょっとしたご飯が食べられると遊んだついでにランチできて嬉しいです。
- ・ 売店はパツとする食べ物がない。ポテトなど、気軽に食べられるものを置いてほしい。食堂があれば、一日ゆっくり楽しめると思う。
- ・ 公園に来たらちょっとお茶をしたいのでカフェが欲しい。飲食レストラン等があれば、ランチ等も友人と共にしたい。
- ・ 緑を借景にしたカフェは素敵です。お役所的な発想でない、儲かるカフェ無理なのかな？
- ・ 今あるものをバージョンアップさせて欲しい。また、周りに飲食できる所が少ないので充実させていただけると楽しめる。
- ・ 販売されている物が少なく、もう少し充実して欲しい。お花の販売して欲しいです！
- ・ 今のあけぼの山公園がとても好きです。ただ、もう少し売店や常時食べるものを販売する施設があると更に良いと思います。
- ・ とても好きな場所です。飲食もコンセプトが先に立っていてお客の方を向いていない内容が以前よりもここで食事をしなくなった理由でもあります。見て、体験して、食べて楽しめる場所になることを希望します
- ・ 美味しいコーヒーやちょっとした焼き菓子などの提供と場所があれば、もっと利用します。売店の充実も望みます。

その他には、様々な意見がある。

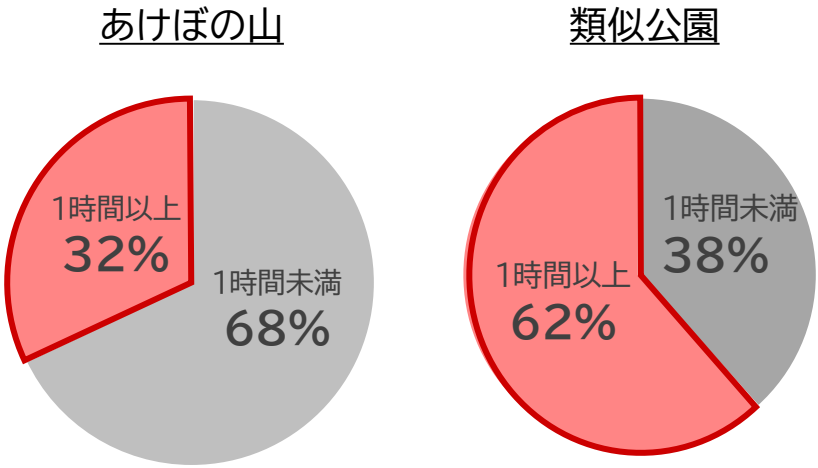
- ・ 年間の来客からみると先程の花見時期に集中していると感じます。他の魅力発信も必要なのかなと感じる所もあります。
- ・ 今あるものをバージョンアップさせて欲しい。
- ・ 自然に恵まれ癒やされますが、もう少し施設の充実とトレンド感があると良いと思う
- ・ まだ改善の余地が大であり、花の時期だけのイベントでなく各種施設が、十分活用されているとはいいがたい。
- ・ 公園内にペットを連れて入れるようになり、満足度が増した。
- ・ 布施弁天をもっとアピールして平日の参拝客を増やしたい
- ・ 利用する年齢層が広いので、高齢者への配慮が欲しいです。高齢者にあずまやとかベンチが沢山あればと思います。

⑥ 滞在時間と消費額

類似公園との比較

- あけぼの山の場合は、**滞在時間の短い人が非常に多い**状態で、多くの人に足を運んでいただけているものの、残念ながら、**消費額も非常に小さい**状態である。
- 将来にわたる持続可能な公園運営や地域振興(農業・観光)の観点から、**現在の公園は地域経済を支える一翼を担うことができていない**のが現状である。

※1

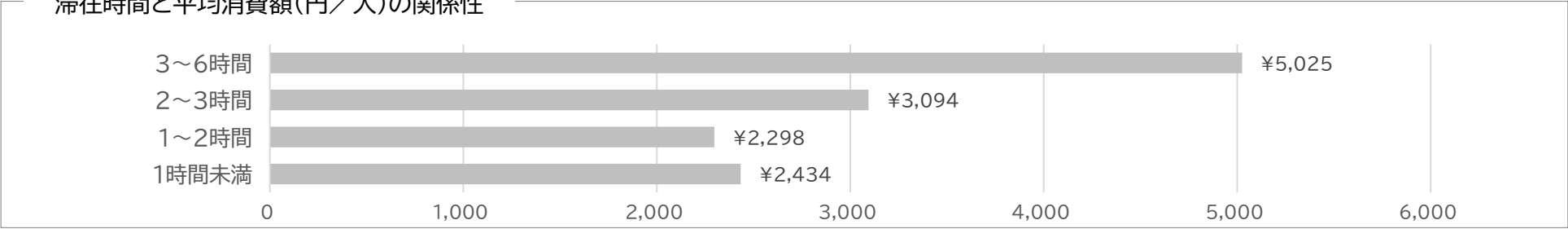


※2

	あけぼの山	類似公園
義務的支払い (入園料・駐車料)	0円/人	548円/人
選択的支払い (飲食・物販等)	44円/人	257円/人
コンテンツ	飲食 (BBQ) 物販 (売店)	飲食 (カフェ・軽食) 物販 (ショップ) 体験

※3

滞在時間と平均消費額(円／人)の関係性



※1 携帯位置情報からの推測値(R4年度 20代以上のデータ)、※2 ホームページの決算書類より柏市で推定 ※3 国土交通省:観光産業における広域的エリアへの経済波及効果調査検討業務

⑦ 類似の花の公園との比較

- ・ 近年、全国各地で「**他にはない独自の花の魅力**」を発信する花の名所が増えている。
- ・ 本公園は、更に魅力向上を図ることが可能なポテンシャルを有する公園であるものの、**現状のまま**何もしなければ、その**魅力向上の機会を失う**とともに、**相対的に本公園の魅力が下がっていく**と危惧される。

関東圏の花の名所(例)



ここだけの広大な花の景観

国営ひたち海浜公園
(茨城県ひたちなか市)

平成14年にネモフィラを植え始め、花の景観(見晴らしの丘)は全国的に有名な場所となった。秋のコキアも有名。

運営:(一財)公園財団

面積:約215ヘクタール(開園部)



バラを軸とした滞在空間と体験

いばらきフラワーパーク
(茨城県石岡市)

令和3年に県の花であるバラをテーマに、リニューアル。年間100のアクティビティなど、五感を刺激するひとときを提案。

運営:(株)パークコーポレーション※代表

面積:約30ヘクタール



日本一の圧巻の藤

あしかがフラワーパーク
(栃木県足利市)

園内に350本以上の藤があり、樹齢160年、日本最大面積の藤棚が有名。また日本三大イルミネーションとしても有名。

運営:(株)足利フラワーリゾート

面積:約8ヘクタール

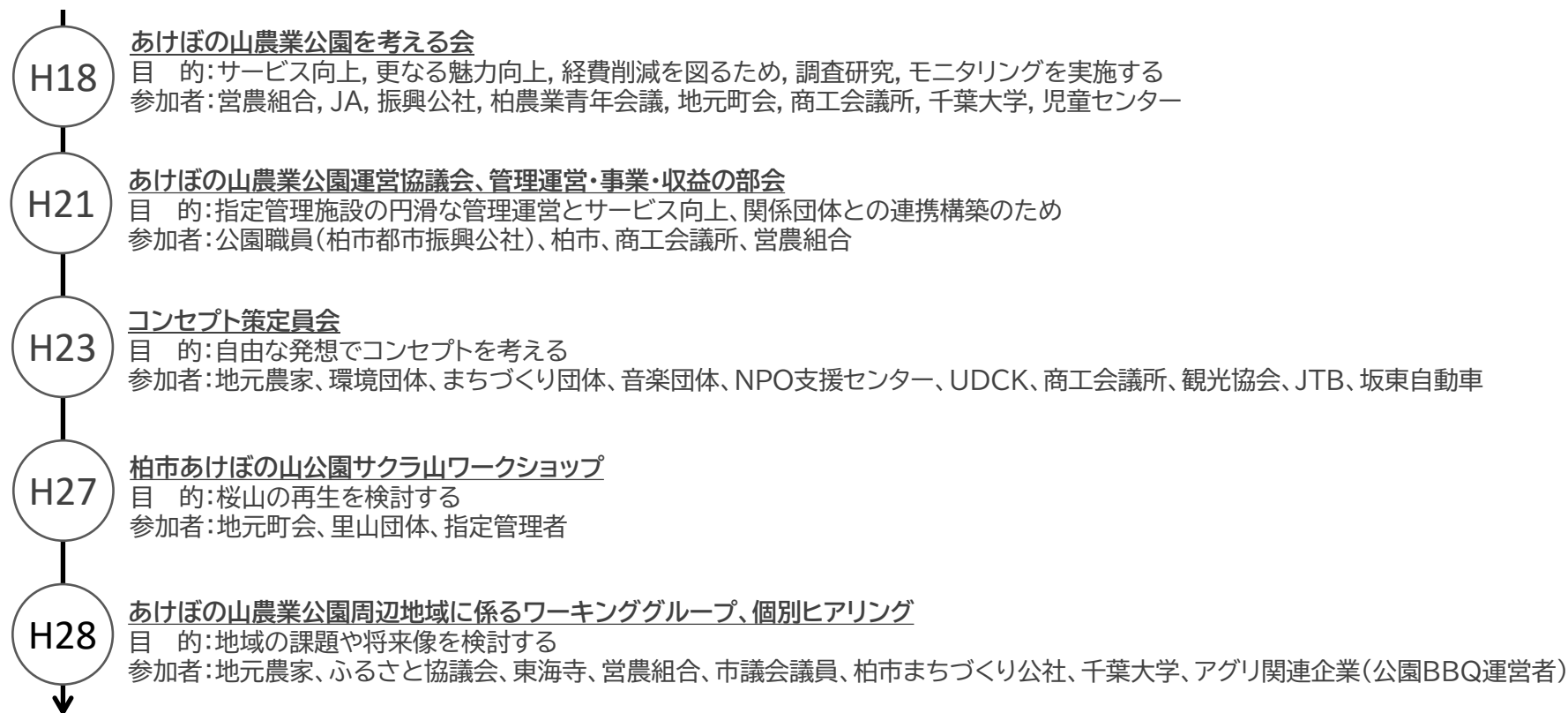
他にも、横浜イングリッシュガーデン(神奈川県横浜市)、中之条ガーデン(群馬県吾妻郡中之条町)、HANA・BIYORI(東京都稲城市)、京成バラ園(千葉県八千代市)、東京ドイツ村(千葉県袖ヶ浦市)、マザー牧場(千葉県富津市)など、近年、新たな花の魅力を発信してる公園等が増えている。

4. 過去の議論の振り返り



① 主な議論の場

様々な機会を通じて、多くの方と議論してきた



公園に関する主な意見の分類

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

② 公園に対する過去の意見

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

主な意見の抜粋・要約

○コンセプト自体

- ・公園のコンセプトが**はっきりしていない**。

○当初のコンセプト

- ・農業公園は「農業技術、農業経営等の研修及び地域農業の振興」が本来の目的。**現在その取組は見られない**。
- ・**地域のために活用できるような施設**として始まった事業である。

○時代の変化を踏まえて

- ・農家の技術の向上、所得の向上というのは、**もう違う**のではないか。**今の農家も望んでいない**。
- ・農業技術の向上は、地域振興が大きな目標であり、**地域振興へコンセプト替えが必要**である。
- ・後継者不足から農業技術の向上は後回しで、**農業経営の安定化、振興に資する**ために施設として利用してもらいたい。

○市民・公園利用者の視点

- ・市民には**風車、四季折々の花畑としての印象**が強い。

- 公園開設時の「目指す姿※」が、**時代背景の変化により、見えなくなっている、合わない部分もある**。
※市民の余暇ニーズに応えること、そして市民との交流共生を通じて農業の振興、農村の活性化を図ること
- 地域振興や農業振興など**地域の視点に加えて、市民・利用者の視点、柏市として、**どういう公園を目指すのか。

② 公園に対する過去の意見

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

主な意見の抜粋・要約

○魅力そのもの

- ・ **公園そのものに魅力がない。**
- ・ チューリップ以外の時期に人を呼ぶことが重要。花が不足する時期に魅力がない。
- ・ イベント開催以外の集客力がなく、**年間を通しての利用客数を増やしたい。**

※魅力化するコンテンツの例

- ◆ 花のコンテンツ充実 花をきれいに見せる工夫が必要。
- ◆ 大人向けの公園づくり 子育て後にも楽しい公園づくりが必要。
- ◆ 農産物の商品開発化 加工館では1年を通して活用できず、新商品の開発等ができない。
- ◆ くつろげる空間の充実 ゆっくり過ごす場所になっていない、日蔭、ベンチなど休憩施設が少ない。夏の日除けがない。
- ◆ 食・売店の充実 軽食・オープンカフェがほしい。地産のメニューが少ない。売店の充実が必要。に乏しい。
- ◆ 遊ぶ空間の充実 アスレチックの復活を望む声が多い。遊具があると農業公園に付随的に来てくれる。
- ◆ 農産物の販路の拡充 農産物直売所の拡充が必要。
- ◆ 移動コンテンツの導入 坂があって大変。足が不自由なのでバスみたいなもので散策したい。
- ◆ 学習・体験の充実 『学べる体験』のプログラム化が必要。地域の自然や生き物に触れる機会が少ない。
- ◆ 地域資源の活用 布施弁天、布施菜、観光農園、八朔相撲、花などの資源を活用・連携した観光プログラムが必要。
- ◆ 情報発信の充実 イベント・観光農園などPR不足で、遠方からの来園が見込めない。地域でも知らない人がいる。

- 風車前の花の季節以外の**魅力が弱く、年間を通じて利用客を増やせないか。**

② 公園に対する過去の意見

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

主な意見の抜粋・要約

○公園へのアクセス

- ・ 交通渋滞、バスが入れない、バス停が遠い、駐車場が足りないなど、**交通と駐車場が大きな課題**である。
- ・ 公園や観光農園までの**サインが不足している**。

○公園内の動線

- ・ 園内の**バリアフリー対応が不完全**である。
- ・ 園路の不連続な場所がある。
- ・ 園内での**ルートが分かりにくい、サインが不足している**。

- 交通渋滞で周辺地域には迷惑をかけている、バスが考慮されていない、たどり着きにくい、駐車場が足りなく止められないなど、**交通と駐車場は大きな問題**である。
- 園内もサインがないなど、**公園全体を回遊して楽しむ公園**となっていない。

② 公園に対する過去の意見

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

主な意見の抜粋・要約

○施設配置

- ・ **どこからどこまでが公園か分かりにくい。**
- ・ 施設の配置が**散漫で飛地などバラバラ**である。(駐車場、トマトハウス、売店、食堂など)
- ・ 通常は**施設を集約**すべきであり、更に**駐車場を隣接**させる必要がある。

○施設活用

- ・ **◆積極的活用** ピザ窯、登り窯、温室の積極的な活用をすべき。土地や施設を5年程度で貸し出すことはどうか。
- ・ **◆用途の再検討** 資料館は時代に合わないから魅力がない。利用頻度の低い施設がある。
- ・ **◆ルールの再検討** 芝生広場は特定の人しか使っていない。
- ・ **◆施設の必要性** スポーツ施設といった公園のコンセプトに合わない施設がある、池など重複施設の整理が必要である。
- ・ **◆機能の発揮** 雨が降ると使えない駐車場もある。農産物直売所(トマトハウス)の魅力を高める。

- 公園区域が分からず、施設配置もバラバラなので**利用者には不便**であり、結果として施設利用が少なくなる。
- 施設は十分に活用されいない、公園に必要な施設か、使い方の工夫ができるか、**検討が必要ではないか。**

③ 農業に対する過去の意見

1. 公園のコンセプト

2. 公園の魅力

3. 公園へのアクセス

4. 公園の施設

5. 農業振興

主な意見の抜粋・要約

○農業所得の向上

◆担い手の確保

- ・〈農業後継者の育成〉 農家を継ぐ人はほとんどいない。
- ・〈多様な労働力確保〉 労働力も外国人の協力が必要。
- ・〈法人の担い手確保〉 農業後継者が居なくても、経営者が居てくれればよい。

◆生産性の向上

- ・〈農地の集積集約化〉 市の公社や民間など一括借り入れるようにして、面的な経営をしてほしい。

◆生産と消費の拡大

- ・〈地産地消の拡大〉 農業後継者のためにも収益の上がる必要がある。農産物直売所(トマトハウス)の魅力を高める。この公園と一緒に生きる農業(農業の観光化)を周辺農家はやった方がよい。
- ・〈生産基盤の整備〉 周辺イチゴ農家では観光農園の通年化や規模拡大の考えもある
- ・〈6次産業化の推進〉 本来の農業とともに6次産業化・観光農園など、収益モデルが必要である。

○多機能面の発揮

◆社会的機能の維持

- ・〈農業の理解啓発〉 営農組合として収穫体験を進めていきたい。市民農園は専門家の指導にニーズがある。

- 公園周辺の農業や田園景観の将来にわたる持続可能性に危惧がある。(高齢化・後継者不足)また、公園周辺の農業の形、将来像が見えていない。(公園の魅力化と共に生きる農業とは・来園者が楽しむ農業とは)

5. まとめ



○あけぼの山周辺地域の現状について

- ・ 古くからの「歴史・文化」や「田園景観」、そして多くの人を惹きつける「風車と花畑」がある**魅力的な場所**である。
これらは、**今後も維持強化してほしい**という声大きい。
- ・ **余暇を過ごす非日常的な場所**として、多くの柏市民をはじめ、広域の地域、そして幅広い世代に選ばれている公園である。

○課題その1について（ハード・インフラ面）

- ① 2つの公園の成り立ちや経緯は異なり、**土地はパッチワーク状態**であり、**一体性に欠ける**状態となっている。
公園利用者にとっては、どこまで公園が分かりにくく、公園の全容を知らない人も多い状態である。
- ② 生活に影響を及ぼす渋滞が発生、バスが不便、公園にたどり着きにくい、駐車が足りない等、**交通と駐車場は大きな問題**である。
園内もサインがないなど、**公園全体を回遊して楽しむ公園**になっていない。
- ③ 公園区域が分からず、施設配置もバラバラなので**利用者には不便**であり、結果として**施設利用が少なくなる**。
施設は十分に活用されない、公園に必要な施設か、使い方の工夫ができるか、**検討が必要ではないか**。

○課題その2について（ソフト・管理運営面）

- ① 公園の魅力が弱い
 - 風車前の花が咲く特定の時期以外の魅力が弱く、**年間を通じて利用客を増やす工夫**ができていない。
 - 観光という広域的な観点では、**公園の認知度が高いとは言えない**状況である。
 - 他の花に関する類似施設が特色ある魅力を打ち出す中、**相対的に本公園の魅力が下がっていく**と危惧される。
 - サービス面では、飲食や物販（花・野菜など）やイベントの充実に対する期待が大きい、**十分に提供できていない**。
- ② 持続可能な公園運営や地域振興（農業・観光）の観点から、**現在の公園は地域経済を支える一翼を担うことができていない**。
- ③ 営農組合が運営する風車前の花畑、公園周辺の**農業や田園景観**の将来にわたる**持続可能性に危惧**がある。（高齢化・後継者問題）

6. 意見交換



頂きたいご意見の視点

- ① 自己紹介も兼ねて、以下の項目について、ご意見をお願いします。
 - ・ あけぼの山に対する感想や想い
 - ・ 現在の公園の魅力や強み(将来も引き継いでいくべきもの)
- ② まとめの課題に対して、課題の内容や解決策について、ご意見をお願いします。
 - ・ 解決に参考になる事例等あればご紹介お願いします。
 - ・ 不足する課題があれば、追加お願いします。
- ③ その他の自由意見交換

次回(以下は想定している内容です)

1. 前回の振り返り

2. 思い描く、公園となっていくには、何をしていくべきか。

- ・前回の内容を元に掘り下げて、ご意見をいただきます。

3. それぞれのプレイヤーに対する期待・役割

- ・市、民間企業、営農組合、布施弁天、大学、公園ボランティア
公園周辺の飲食事業者など